

区政のここが聞きたい

第1回定例会一般質問(要旨) 2月18・19日



※本会議、常任委員会、特別委員会、議会運営委員会及び予算・決算特別委員会の録画映像を、区議会ホームページで公開しています。

次世代に繋ぐ「強くて優しい豊島区」の実現へ



自民党豊島区議員
磯 一昭



●豊島区基本構想・基本計画について

問 新基本構想全体を貫く基本的な考えは。

答 構想全体を貫く、「誰もがいつでも主役」「みんながつながる」「出会いと笑顔が咲きほこる」「憧れのまち」の3つの理念を掲げている。「参画・協働・共創」を基本に、区民の声を丁寧に取り止め、区民目線でのまちづくりを公民の力を結集して進める。

●令和7年度予算案について

問 令和7年度予算編成方針及び持続可能な財政運営への展望は。

答 限りある財源の有効な再配分と中長期的視点に重きを置き、予算編成に臨んだ。時代に合った事業への再構築及びそれに伴う財源の有効な再配分を行い続けることが極めて重要である。

問 都区財政調整交付金の都区間割合の変更の経緯、児童相談所関連経費増加との関係は。

答 特別区長会による都との6年間に及ぶ粘り強い協議の結果である。今回の変更は、予定される児童相談所の設置を踏まえたものと受け止めている。

●街づくりについて

問 区内各地域で進められているまちづくりに、「事前防災まちづくりの取組」と「事前復興の発想」を取り入れてはどうか。

答 地域特性に応じた災害に強いまちづくりを進めることが、事前の復興につながるが、

問 誰もが居心地の良い屋外空間を確保するための喫煙所整備を望む。

答 引き続き民間事業者等に喫煙所整備への助成制度の活用を働きかけ、その活用動向や区民の声を踏まえ、公設の喫煙所設置を今後検討する。

●防災・減災対策について

問 今回の防災フェスで特に取り組んだ課題及び今後の在り方等、区の考えは。

答 特に小さいお子様や若い方などを含めた幅広い年齢層の方に参加いただけるよう企画した。毎年参加される方も飽きることなく楽しみながら防災意識向上を図れるための検討を継続する。

問 ドローン運営事業者との定期的な協議や会議等へ参加は。

答 今後定期的に協議の場を持ち、被災状況確認方法の具体的なシミュレーション等も実施したい。また、協定事業者の防災会議への参加を検討する。

●学校教育について

問 デジタル教育の現状及び諸問題への認識と対策は。

答 英語は100%、算数・数学は50%の学校でデジタル教科書を活用し、児童生徒の学力向上の効果を検証している。今後、タブレット入替時は、堅牢性の高い機器の導入を予定している。



ドローンによる被災状況確認

●5歳児健診実施について

問 不登校児が減少すると言われる5歳児健診を実施しては。重要な取組であると認識し

答 重要な取組であると認識し

●新年度予算について

問 小1の壁モデル事業について保護者の声は。4月から全校実施予定だが事業概要と課題は。

答 朝の子どもの預け先に困っていたので助かるとの声がある。朝の児童の見守り「おはようクラス」と夕方の児童の見送り「おかえりサポート」を2校で試行実施。当初、学校は児童のけが等の緊急時対応を心配したが、

従事する学校用務員が救急救命等の講習を受けていること等を説明し、理解と協力を得ている。

●認知症施策について

問 認知症サポーター養成講座の開催状況と認知症サポーターの養成数の推移は。また、養成数の目標値の設定と達成率は。

答 5年度は59回、千209人、6年度は1月末現在で40回開催、千988人を養成。養成数の目標は年間千200人。昨年度はほぼ100%、今年度は165%の達成率である。

●安心の街づくりについて

問 区内の下水道管で耐用年数を超えるものの数と老朽化した

答 区内の下水道管で耐用年数を超えるものの数と老朽化した

問 区内の下水道管で耐用年数を超えるものの数と老朽化した

答 区内の下水道管で耐用年数を超えるものの数と老朽化した

問 区内の下水道管で耐用年数を超えるものの数と老朽化した

答 区内の下水道管で耐用年数を超えるものの数と老朽化した

問 区内の下水道管で耐用年数を超えるものの数と老朽化した

答 区内の下水道管で耐用年数を超えるものの数と老朽化した

問 区内の下水道管で耐用年数を超えるものの数と老朽化した

答 区内の下水道管で耐用年数を超えるものの数と老朽化した

問 区内の下水道管で耐用年数を超えるものの数と老朽化した



夕方の児童の見送り「おかえりサポート」



公明党
根岸 光洋



ており、フォローアップ体制の充実が課題である。関係機関と課題を共有し、充実した発達支援体制の確立を目指す。

●教育について

問 部活動の支援、居場所づくり、学習支援の3本を一体的に進め、全ての中学生に適した放課後の充実について、現状は。

答 まず、としま地域クラブを実施している。また、西池袋中学校の「にしまるーむ」を継続するとともに、としま地域未来塾を学習院大学でも始めた。

●スポーツ推進について

問 本区独自のスポーツ推進条例の制定を求める。区の見解は。

答 制定について検討していく。

●子どもの福祉施策について

問 児童養護施設等の誘致における現状と課題は。また、今後の取組方針とスケジュールは。

答 措置児童の99%が区外設置の児童養護施設等で生活・通学し、入所児童への手厚い支援に至らないことが課題の一つ。7年度は児童養護施設の運営事業者対象のヒアリング候補地の検討等の調査を実施する。順次スケジュールも示していく。

●安心して住み続けられる豊島区の「現在・過去・未来」

●参画から協働へ、そして共創へ

問 参画、協働、共創の実現にはファシリテーションスキルを区職員が習得するべき。習得研修の実施段階、実施形態は。

答 係員2～5年目の職員等を対象に7月頃に実施予定。ロールプレイを通じて実践し、フィードバックを受けて、良かった点や改善点を整理する。

●特別支援教育について

問 合理的配慮ができる人材確保とハード面の整備は全国的な課題。その上で区がインクルー

答 都の学級編成基準に基づき特別支援学級の教員を適切に配置し、ハード面の整備に既に着

合理的配慮のできる人材確保とハード面の充実を!!

合理的配慮のできる人材確保とハード面の充実を!!

合理的配慮のできる人材確保とハード面の充実を!!

合理的配慮のできる人材確保とハード面の充実を!!

合理的配慮のできる人材確保とハード面の充実を!!



合理的配慮のできる人材確保とハード面の充実を!!



立憲・れいわ
さくま 一生



シブな教育を進める合理的理由は。

手している。可能な限りインクルーシブな教育を進めることで、思いやりや助け合いの心が育まれ、多様性の理解に大きな役割を果たすと考えている。

問 「交流及び共同学習が機械的かつ画一的な取組とならないように」との文部科学省の通知をどのように受け止めているか。

答 教育委員会は通知の趣旨を受け止めて目指している。

問 中学校の特別支援学級だけの合同合宿再開について見解は。

答 必要な支援をした上で、今後も引き続き、通常の学級と合同で実施する。

●防災訓練について

問 かまどベンチなどの運用計画は。区内の公園に設置されているかまどベンチの鍵の所在は。

答 発災時に地域の住民が自主的な炊き出しなどを行うことを想定。かまどベンチの鍵は、設置した公園が所在する地域の町会のほか、希望があれば周辺の

町会にも渡すことにしている。

問 かまどベンチを活用した炊き出し訓練、燃料資材の現在の準備・管理状況及びボイスカウトや町会との連携は。

答 地域防災組織が行う訓練でのかまどベンチを使用した炊き出し訓練は有用。かまどベンチは地域から要望されて設置したものであり、燃料資材は、使用者の管理となる。ボイスカウト、町会との連携も有益である。

●まちづくり広場について

問 お庭クラブ運営委員会の私の庭・みんなの庭の取組をどのように評価しているか。

答 地域コミュニティの活性化に貢献している地元関係者の取組を高く評価している。

問 広場の管理における地域住民との協力関係の明文化が無い場合、協定を締結してはどうか。

答 地域主体で管理する広場は、要綱に基づく協定を締結するよう調整し、進めていく。

としまの未来



都民ファーストの会・国民
中澤 まさゆき



●令和7年度予算について

問 予算編成で区長が重視した点、予算を組んだ狙いと背景は。

答 これまで以上に区民の声を反映することを重視。あらゆる方々が心豊かで、人と地域がつながる「ウェルビーイングなまち」を目指していく。

問 ふるさと納税制度に対する基本的な方向性と、区の寄付額の現状に対する評価、増額に向けた今後の事業展開は。

答 廃止を含め抜本的に見直すべき。一方、返礼品事業の本格導入から約1年で1億円に達し

携して、生徒や保護者への説明を行っている。

問 新しい環境での学び

相談体制

ゆとりある事業

体験的な学習



不登校の児童を支援する文化を

●町会活動について

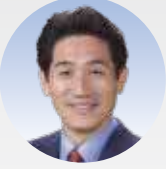
問 活動の維持が難しい町会における対応策について、見解は。

答 オンラインの取組とデジタル化による効率化が必須である。

●防災対策について

問 5年ぶりに改訂される豊島区地域防災計画の修正ポイントは。また、防災備蓄用品や避難

時代の転換期。未来を見据え、真の改革を目指す豊島区となろう！



維新・無所属
ふるぼう 知生



●令和7年度豊島区予算案について

問 枠配分予算休止の理由と政策経営部査定の意味は。また、各部局長の役割と休止の影響は。

答 適正な予算配分や客観的な視点での事業の新陳代謝促進のため、予算・財政・計画の要となる政策経営部の役割は重要。各部局長の権限や役割は変わらず、これまで以上に全庁一丸となつて行財政改革に取り組む。

●としま未来文化財団について

問 区の任期付き職員が任期後に外郭団体で採用された経緯や根拠、雇用継続の妥当性は。

答 理事長を中心に事務局長等による協議と本人との面談で決定している。

●所運営の拡充及び物流ルートは。

問 在宅避難の推奨や衛生用品備蓄等の感染症対策強化を新たに記載。備蓄物資や避難所運営は女性視点による見直しを進める。物流ルートが遮断された際の代替ルートも協定事業者と協議を進め、体制を整備している。

●防犯対策について

問 防犯パトロールに参加する若い方が少ない等の課題があるが、今後の対策は。

答 区内大学や専門学校の学生にパトロール参加を呼びかけ、地域防犯力の強化に努める。

問 防犯力向上のための、個人住宅への防犯カメラ等設置助成について、区の見解は。

答 昨今、特殊詐欺をはじめ様々な犯罪が発生しているため、購入助成について検討していく。

問 地域住民の団体に管理を委ねる方向で役割分担を構築することが財団の経営合理化に資すると考えるが、区の考えは。

答 公的な施設運営の基本と文化芸術施設の専門的知識等も必要であり現時点では困難である。

●豊島区公共施設更新計画について

問 学校施設長寿命化の経費と使用可能期間の見込みは。また令和12年から26年の期間で長寿命化できる学校はあるか。

答 1校あたり概ね60億円程度。改修後30年以上耐用年数を延ばすことができる。現時点で長寿命化改修の想定はない。

問 早期に長寿命化を含めた各学校の改築案を示し、将来像が

描かれた学校改築・長寿命化計画案の作成が必要。区の考えは。

答 今後検討するため現時点では示せないが、部分的改修は毎年度の実施計画の中で示す。昨今の社会経済状況の変化を見ると20年以上先の未来を見据えた計画案を示すのは困難である。

問 朋有小学校と西巢鴨中学校の小中連携校及び総合体育場それぞれのグラウンド機能の確保とスペースの有効活用は。

答 学校施設の一部を共用することで省スペースを図る。また、学校と総合体育場の各施設を集約し高層の複合施設としての整備、総合体育場グラウンド

地方自治体の役割は、福祉とくらしの向上



日本共産党
儀武 さとる



●基本構想・基本計画にもとづく、2025年度予算について

問 物価高騰に苦しむ区民の声をどのように反映したのか。重い社会保障の負担軽減策が盛り込まれていないが、解決策は。

答 定額減税給付の経費等を計上。必要際には補正予算で対応する等、区民生活を支援する。引き続き、国や都に保険料負担軽減策の拡充等を要望する。

問 区民が求めている住宅は、337億円の税金が投入される南池袋二丁目C地区市街地再開発事業による億ションではなく、区営、福祉住宅の増設である。

答 区営住宅の建て替えに合わせ、従来を上回る供給戸数を図る。

●介護事業所の支援、介護職員の処遇改善について

問 訪問介護事業所への直接支援が必要。また、国費による介護職員の賃上げを求めるべき、当

の授業等での活用を検討する。

●豊島区少年野球の韓国交流試合ツアーについて

問 一部旅費の補助をすべき。

答 政治情勢等を考慮し、現時点で旅費の一部助成は難しいが、引き続き検討したい。

面、区が独自支援をすべき。

答 引き続き、国に対して介護職員の処遇改善を要望する。独自支援は考えていない。

●2050としませろカーボン戦略について

問 市街地再開発事業等で排出するCO₂の削減をどう進めるのか。また、国にエネルギー基本計画原案の撤回を求めるべき。

答 区民・事業者と一層連携し、着実に各施策を推進する。計画の撤回を求める考えはない。

日韓親善少年野球大会



地球温暖化対策は喫緊の課題

●北大塚一丁目都営アパートと東部区民事務所の建替えについて

問 入居者の引越し期間延長、移転費用の増額及び供給戸数を増やすこと等を都に求めるべき。

答 入居者の移転は都が責任をもって対応すると認識。供給戸

終活支援体制の更なる充実で、高齢者やそのご家族がより安心して暮らせる豊島区へ！



無所属元気の会
小林 弘明



●豊島区の終活支援の現状について

問 終活あんしんセンターについて、本庁舎での案内や告知は行っているのか。また、利用者数と利用者の声を教えてほしい。

答 所管課で区民の問合せに対し案内しているほか、HPや区各施設でチラシ等を幅広く配布。5年度は75件の相談があり、好意的な感想が寄せられている。

●一人暮らし高齢者の方々に対する終活サポートについて

問 一人暮らし高齢者割合の増加に伴う課題は。また、専門家



終活あんしんセンター窓口

枠組みが大きく変わる時代の状況を把握し、新たな発想と思い切った手段でみんなで幸せに



自民党豊島区議員
松下 創一郎



●少子高齢化の影響について

問 区で執り行うカスハラ対策は区立小中学校でも適用可能か。適用方法及び児童・生徒等へのケア等運用について区のは考えは。

答 区の対応マニュアルは、主に来庁者等への対応指針であり、適用は難しい。必要に応じ関連機関等と連携し対応していく。

問 今後、区が担わなければならない事業の増加が懸念される。今後の変化の想定と、区が行う

べき行政サービスの範囲をどう

規定していくのか、区の見解は。

答 税収や人員減少に伴う経営資源の制約が想定される。区民

参画と協働を一層推進し、共助・共創のまちづくりを進めていく。

●地球温暖化による影響について

問 下水道管の老朽化や近年頻発する大規模降雨等の発生に備えた区の対策は。

答 都下水道局で下水道管の老

数の増加は都に要望している。

●投票所の改善について

問 高齢者にとって、駒込小学校前の坂を上り、投票するのは困難。投票所の増設や移動投票所を設ける等の検討をすべき。

答 増設は考えてない。移動投票所も課題が多く導入は難しい。

●経済環境の変化による影響について

問 活況な民間事業、物価高騰等を背景とし、公共事業の入札不調が頻発している状況だが、

区の公共事業に対する方針は。

答 本区の「公共施設更新計画」は、現時点では実現性は高いと考えている。毎年度、様々な状況の変化を踏まえて更新を行い、計画の実効性を担保していく。

●デジタル技術の進化に関する影響について

問 昨年12月に新規の保険証発行が終了したが、その後、マイナ保険証利用等でトラブルは。

答 マイナ保険証コールセンターを設置し相談対応を行い、特

段トラブルは発生していない。

●新たな学校改築計画に関して

問 千川中学校複合施設新築工事の入札状況と取組状況は。また、千川中学校改築後の「学び舎びいす」の活用は。

答 再入札までは不調に終わった。再々入札の際は、建設費の変動を考慮した単価に入替え、

万全を期して実施する。「学び舎びいす」は、最大限に有効活用

するため、検討を進める。

●防災・減災対策について

問 デジタル申請関連について、独自アプリ等の開発か既存プラットフォーム活用かの判断基準と、今後の行政手続オンライン・デジタル化の予定と意気込みは。

答 費用対効果や利用者ニーズ等を踏まえ判断している。行政手続オンライン化を今年4月

までに300件まで拡大を目指す。

●デジタル申請の推進状況について

問 昨年11月の道交法改正でモペットのルールが明確化されたが、未だに危険運転が多い。改正以降の区登録台数の変化、その数値に対する区の捉え方は。

答 改正以降の登録台数は4台。登録されていない車両、通過交通等の課題を念頭において情報発信等が必要と考える。



デジタル申請の推進状況について

誰もが安全・安心で笑顔あふれる豊島区に！



公明党
辻 薫



●2025年度予算について

問 市街地再開発事業の財源スキームと今後の見込み、予算編成への影響は。

答 都市計画交付金のほか、都区間の協議により4年間特別区財政調整交付金が増加されるため、実質的に区の負担はない。

●「持続可能で未来につながる」まちづくりについて

問 基本構想・基本計画の周知について、ミニブックを活用し

た説明会等を開催してはいいか。また、区政に継続的な参画を促すための具体的な方法は。

答 HPやSNSのほか、説明会を実施する等、幅広く周知する予定。未来としみミーツイン

グや事業提案制度等区民の声を区政に反映させる仕組みを強化し、参画の機運を高める。

問 デジタルプラットフォームを活用し、区民の意見を区政に反映させる取組を検討すべき。

●不登校対策について

問 不登校を理由に通知表に成績がつかないことへの見解は。

答 不登校対策委員会において、不登校の児童生徒の学校外での学びの評価方法について検討し

ており、令和8年度に策定予定の不登校対策総合計画に成績の取扱いについてのガイドラインを示し、より適切に評価することができるよう準備をすすめていく。

●登校支援学級「スリジエ」

問 登校支援学級「スリジエ」での授業の行い方と通学手段は。

答 都の正規教員5名が加配され、通常学級の教員と併せて全ての教科指導を行う。通学手段は、原則徒歩や公共交通機関での通学としているが、自転車通学も認めることを検討する。

●住宅施策について

問 コミュニティ・スクール活動を中心に、各中学校における防災力向上のための取組を。

答 これまでの取組を基に、中学生が各地域の地域防災の担い手となるよう推進していく。

●生活するだけで価値がある、としまのまちづくりへ(2)

●2025年度予算について

問 市街地再開発事業の財源スキームと今後の見込み、予算編成への影響は。

答 都市計画交付金のほか、都区間の協議により4年間特別区財政調整交付金が増加されるため、実質的に区の負担はない。

●「持続可能で未来につながる」まちづくりについて

問 基本構想・基本計画の周知について、ミニブックを活用し

た説明会等を開催してはいいか。また、区政に継続的な参画を促すための具体的な方法は。

答 HPやSNSのほか、説明会を実施する等、幅広く周知する予定。未来としみミーツイン

グや事業提案制度等区民の声を区政に反映させる仕組みを強化し、参画の機運を高める。

問 デジタルプラットフォームを活用し、区民の意見を区政に反映させる取組を検討すべき。



家具転倒防止器具の設置を

問 家具転倒防止器具購入及び設置助成事業の概要は。希望対

象者宅全てへ設置する仕組みの構築を。

●若者の住居確保支援の具体的支援策は。

答 区営住宅の建て替えに合わせ、若者・子育て世帯のニーズへ対応し、また多様な世代、世帯が交流することが出来る居場所などを有する「新たな公営住宅」を検討し、造り替えていく。

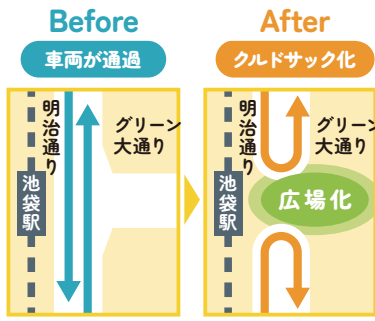
※登校支援学級「スリジエ」…区立西池袋中学校の校内に設置された登校支援学級。1学年10名程度の少人数学級で、区立学校に在籍又は区在住の不登校(不登校傾向含む)生徒が対象。登校時刻を遅らせたり、下校時刻を早めたりする等、ゆとりある生活時程を工夫することで、安心して学校生活を送ることができる。また、正規の教員が一人一人の学習状況に応じた指導を行うことで、学習の定着を図る。

多様な主体と区による新たなネットワーク形成の具体的な展開について、区の考えは。

【答】LINEを活用した双方方向のコミュニケーションの実現に向け準備を進めている。今後も事例を研究し、対応を検討する。

【問】池袋駅東口駅前広場の再編を、持続可能なまちづくりにつながる市民参画の契機と捉えるべきと考えるが、いかがか。

【答】分かりやすく情報発信するとともに、区民の意見を聴くことを大切にし、事業に取り組む。



計画では、池袋駅東口駅前に大きな広場ができる。

●「孤立・孤独」政策について

【問】生活困窮者に対する支援における今年の年末年始の体制をどのように考えているか。

時代の先端に行く 豊島区の姿



都民ファーストの会・国民
原田 たかき



●産業振興について

【問】デジタル産業への区の支援政策の方向性は。

【答】革新的なアイデアとテクノロジー等を持つ企業が本区に集い、区内経済の活性化や多様な社会課題の解決につながるよう、資金面等の支援体制を検討する。

【問】基本計画に「働く方々」への方針を定めた意図と中小企業へのリスクリング支援方法は。

【答】誰もが自分らしく生き生き

【答】マニュアルを整備し、各所と連携しつつ体制を整える。

●「ジェンダー平等」と「女性のエンパワメント」の推進について

【問】基本構想に込めた「女性のエンパワメントの推進」について、区長の考えは。また、今後の具体的な施策の展開は。

【答】全ての女性が活躍できるように応援したいとの思いを込めている。関係機関、団体等と連携し、普及啓発を積極的に進める。性暴力や性搾取に対する今後の取組方針は。また、DV・性暴力予防に関する政策と体制強化について区の考えは。

【答】情報発信や普及啓発に努めるほか、地域や関係機関等との連携を深め支援体制を強化する。

【問】犯罪被害者相談窓口設置及び犯罪被害者等の支援の基本を定めた条例づくりへの取組は。

【答】経験豊富な女性相談員を配置し、被害者に寄り添った相談体制を構築する。条例案は支援団体、当事者等の意見に基づき検討を重ねる。

【問】デジタル機器を使ったものづくり体験ができるファブスペース利用者へのサポート体制は。

【答】とりわけ子どもたちに利用してもらい、将来区を担う人材を図書館から育成できればと考えている。利用者のニーズや経験に応じた確に対応できる専門人材を配置する。

【問】多様な側面を持つ次世代の図書館の実現スケジュールと図書館ごとの特色等の展望は。

【答】8年度改修の上池袋図書館は鉄道、10年度改修の千早図書館は池袋モナルナス等、各図書館の立地背景等から独自のテーマを掲げ、特色を充実させる。貸出・閲覧だけでなく、交流・創造の場等多様な役割を持つ新たな図書館を実現する。

●住宅宿泊事業について

【問】様々な問題や課題に対応するため、条例改正を含めた区の体制の見直しを検討すべきでは。

【問】様々な問題や課題に対応するため、条例改正を含めた区の体制の見直しを検討すべきでは。

未来を担う子どもも・若者を支えるまちづくり、誰もが輝ける豊島区へ



維新・無所属
入江 あゆみ



●若手アーティスト支援の充実について



若手アーティストの支援を

【問】区内で活動する若手アーティストの活動支援を返礼品とするふるさと納税の仕組みを提案する。例えば、アーティストの

【答】7年度に条例改正も含めた運用ルールの見直し等について検討していく。

●学び舎びいすについて

【問】仮校舎として当面使用されなくなった学び舎びいすの今後の活用イメージと住民との意見交換会開催について区の見解は。

【答】不登校の子どもたちの居場所や学習支援の活動場所、総合体育場の代替施設としての活用を考えている。施設を最大限活用できるように、地域住民との意見交換の場を設け検討していく。



学び舎びいすの今後の活用について

作品や演奏を返礼品として提供することの見解を伺う。

【答】若手アーティストの作品やコンサートチケット等を返礼品に加えることは、豊島区の文化振興やイメージアップの効果があるため、ご相談があれば随時検討していく。

●学習支援について

【問】現行の支援制度を利用できていない子どもたちの状況把握、解消への取組と今後の方針は。

【答】子どもたちの実態把握には更なる取組が必要と認識。区の応援内容についてのわかりやすい周知を強化し、アンケート等、

子どもたちの直接の声からニーズを把握し、より広範囲の状況把握の方法を考える。

●障害児支援の充実について

【問】障害児用の特殊な抱っこ紐を日常生活用具給付事業の対象に加えることを提案する。

【答】介護のため必要であれば、移動・移乗支援用具として支給

誰もがその人らしく生きられるよう、権利とくらしを守る豊島区政に



日本共産党
小林 ひろみ



●教育施策について

【問】千川中学校改築の受注業者が見つからない可能性と対応は。

【答】再々入札は万全を期して実施するが、不落の場合は随意契約を模索。それでも契約に至らない場合は規模縮小等の計画変更の検討が必要と認識している。

【問】区独自のフリースクールへの補助制度の実現を。また、給食費相当の補助をすべき。

【答】利用者の実態把握を進めつつ都の施策の推移を注視。給食費相当の補助を行う考えはない。

●国民健康保険について

【問】差押えは厚労省の通知や国税庁の指示を遵守しているか。

【答】法令や国が示す基準等に基づき差押え等の滞納処分を実施。納付相談で状況を丁寧に取り、分割納付等で対応している。

【問】医療を受ける権利を守る立場から、高額医療費の負担上限額引き上げ撤回を国に求めよ。

【答】国の動向を注視する。

●公共交通政策について

【問】地域公共交通計画の策定スケジュールについて伺う。

【答】7年度から検討し、8年度を目途に策定予定である。

の可能性はある。個別相談できるようHP等にその旨掲載する。

【問】発達障害児の特性に応じた支援用具を給付対象に追加し、インクルーシブ教育の環境整備を進めることについては。

【答】最新情報の収集に努め、ニーズや国の告示要件、他自治体動向も踏まえ、追加を検討する。



民泊設置の規制強化を